

第1回スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会

日時：令和6年11月15日(金)

午前9時45分～12時00分

会場：市役所5階全員協議会室

次 第

- 1 開 会
- 2 副市長あいさつ
- 3 委員紹介・事務局紹介
議 題
 - (1)会長及び副会長の選出について
 - (2)スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会について
 - (3)スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定について【諮問】
 - (4)スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想(案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

敬称略

任期：令和 6 年 11 月1日～基本構想策定完了まで

属性	氏名	所属・役職等
学識経験者	田畑 亨 (たばた とおる)	流通経済大学 スポーツ健康科学部 教授
	松橋 崇史 (まつはし たかし)	拓殖大学 商学部 教授
	橘川 栄作 (きっかわ えいさく)	茨城県 営業戦略部 営業戦略統括官
関係団体	塚本 裕 (つかもと ゆたか)	龍ヶ崎市商工会 会長
	望月 進 (もちづき すすむ)	龍ヶ崎市観光物産協会 会長
	木村 忠夫 (きむら ただお)	龍ヶ崎市学校長会 大宮小学校校長
	荒井 久仁夫 (あらい くにお)	龍ヶ崎市スポーツ協会 副会長
	櫻井 円香 (さくらい まどか)	竜ヶ崎青年会議所 広報渉外室 室長
スポーツクライミングに関し専門的な知識を有するもの	浅野 美玲 (あさの みれい)	茨城県山岳連盟 競技委員会 副委員長
	渡部 桂太 (わたべ けいた)	プロクライマー
公募市民	湯原 加那子 (ゆはら かなこ)	
	後藤 泉 (ごとう いずみ)	

○スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会条例

令和6年6月24日

条例第19号

(設置)

第1条 スポーツクライミングのまち龍ヶ崎の実現に向けた基本的な構想(以下「基本構想」という。)の策定に関する事項を審議するため、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、基本構想の策定に関し必要な事項を調査審議する。

(組織)

第3条 審議会は、委員12人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

(1) 学識経験者

(2) 関係団体の代表者又はその指名する者

(3) スポーツクライミングに関し専門的な知識を有する者

(4) 公募の市民(龍ヶ崎市まちづくり基本条例(平成26年龍ヶ崎市条例第58号)第3条第1号に規定する市民(法人その他の団体を除く。)をいう。)

(5) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条の諮問に係る調査審議が終了するまでの期間とする。

2 特定の職により委嘱された委員は、任期満了前において当該職を失ったときは、委員の職を失うものとする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。ただし、会

長及び副会長が選出されていないときは、市長が招集する。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 会長は、必要に応じて会議に関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、健康スポーツ部スポーツ推進課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が審議会の意見を聴いて定める。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(龍ヶ崎市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 龍ヶ崎市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年龍ヶ崎市条例第110号)の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に下線で示すように改正する。

改正後			改正前		
別表第1(第1条関係)			別表第1(第1条関係)		
職名		報酬の額	職名		報酬の額
省 略			省 略		
スポーツ推進計画審議	会長	日額 4,800円	スポーツ推進計画審議	会長	日額 4,800円
会委員	委員	日額 4,400円	会委員	委員	日額 4,400円
スポーツクライミン	会長	日額 4,800円	スポーツクライミン	会長	日額 4,800円
グのまち龍ヶ崎基本	委員	日額 4,400円	グのまち龍ヶ崎基本	委員	日額 4,400円
構想策定審議会委員	委員長	日額 4,800円	教育支援委員会委員	委員	日額 4,400円
教育支援委員会委員	委員	日額 4,400円	調査員	調査員	日額 3,900円
	調査員	日額 3,900円	省 略		
省 略			省 略		

写

龍ス第 91 号
令和6年11月15日

スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会
会長 田畑 亨 様

龍ヶ崎市長 萩 原 勇



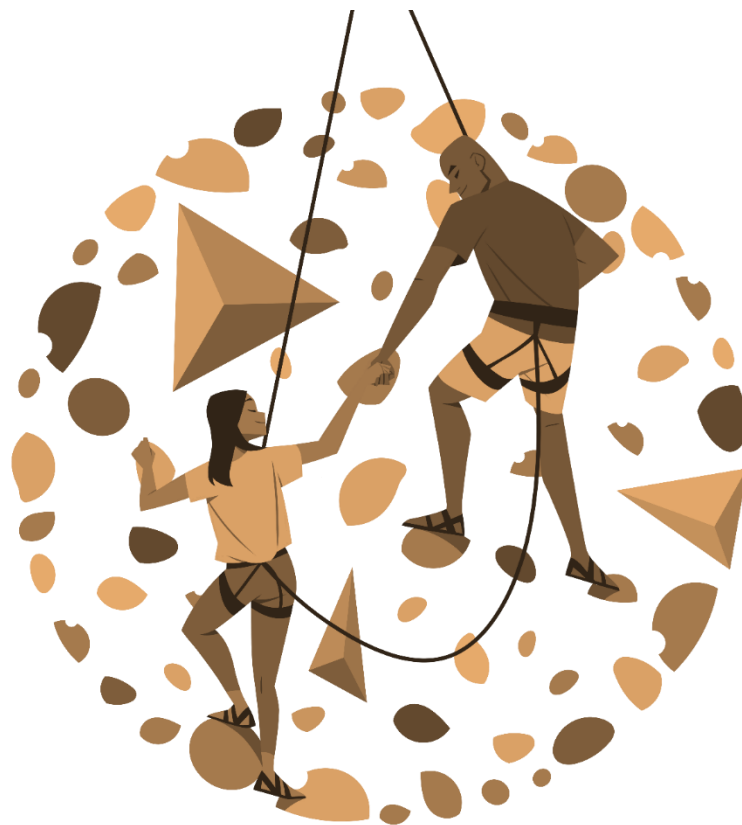
スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想の策定について(諮問)

このことについて、スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想審議会条例(令和6年条例第19号)第2条の規定により、下記のとおり貴審議会に諮問します。

記

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の推進は、パリ2024オリンピックを契機とした機運の高まりを好機と捉え、トップクライマーが身近に存在するという恵まれた環境を活かし、本市の優位性や独自性を発揮でき、さらに、若者世代を中心に人気が広がっているスポーツライミングをまちづくりの資源の一つとして、賑わいの創出にとどまらず、様々な分野と連動した施策の展開を図り、まちに活気をもたらし、選ばれるまちへの発展を目指すものです。

今般、「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向け、将来ビジョンを定めるとともに、事業を計画的、戦略的に進める指針となる基本構想を策定するにあたり、貴審議会の意見を求めたく諮問します。



「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」基本構想（案）

龍ヶ崎市健康スポーツ部スポーツ推進課

目次

1.	本構想の位置づけ・目的	P.2
1-1.	基本構想の策定背景	
1-2.	国のスポーツ振興の動向	
1-3.	上位計画を踏まえた位置づけ	
2.	策定方法	P.15
2-1.	仮説検証型策定プロセス	
3.	基本構想の検討に向けた調査	P.20
3-1.	調査設計	
3-2.	外部環境調査	
	市場調査結果	
	競合他都市調査結果	
3-3.	内部環境調査	
	自市資源調査結果	
	有識者ヒアリング結果	後日更新
	WS実施結果	WS後更新

4.	「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の 目指す姿	P.37
4-1.	ビジョンの策定	
4-2.	推進計画の全体像	
5.	施策内容	P.42
5-1.	施策一覧	
5-2.	各施策の詳細	審議会・WS後更新
6.	ロードマップ	P.
6-1.	取組のステップ	審議会・WS後更新
6-1.	今後の計画・展望	審議会・WS後更新

1. 本構想の位置づけ・目的
 - 1-1. 基本構想の策定背景
 - 1-2. 国のスポーツ振興の動向
 - 1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

1. 本構想の位置づけ・目的

1-1. 基本構想の策定背景

1-2. 国のスポーツ振興の動向

1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

龍ヶ崎市では、「若者の転出超過」と「都市のスポンジ化」が喫緊の課題となっている中で、若者を呼び込みまちが活性化するコンテンツが必要となっています

現在の龍ヶ崎市の状況

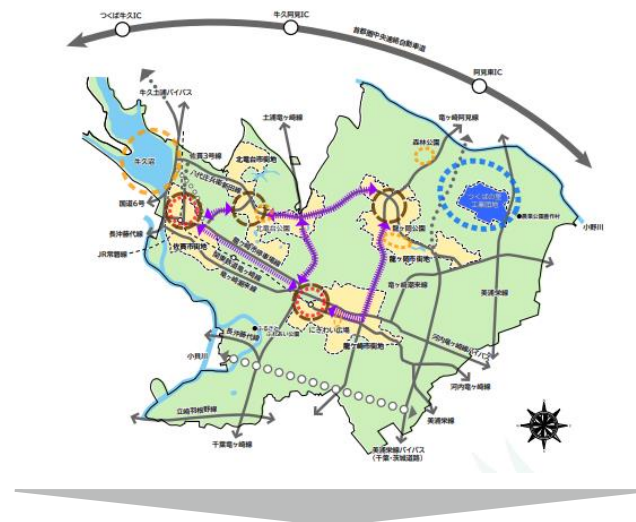
龍ヶ崎市が目指す姿

- ✓ 本市では、議会や審議会に加えて、市民の皆様との対話（アンケートやワークショップ）を通して、みらい創造ビジョン for2030にて、本市のあるべき姿として「Creation -ともに創るまち・龍ヶ崎-」を掲げています



課題

- ✓ 人口減少、特に若者の流出が顕著な状況となっており、**大学卒業や就職を機に、特に20代の流出が大きく、年間200人以上の転出超過**の状況が続いている
- ✓ 市街地における人口の空洞化や空地・空家の発生といった「**都市のスポンジ化**」が懸念されており、**人口減少社会に対応した都市構造への転換**が求められている



トップクライマーが身近に存在する恵まれた環境
市街地を活性化させ若者を誘引するコンテンツとして
期待される“スポーツクライミング”を活用していく

スポーツクライミングは競技としてだけでなく、イベントやツアー、サブ・カルチャーとの融合など他産業の振興にも影響を与えるスポーツである

スポーツクライミングとは

スポーツクライミングとは

- 急峻な岩山での登山行為である岩壁登攀（ロッククライミング、アルパインクライミング）から生まれ、欧州で競技化し世界に普及
- スポーツという側面に拘らず、**アニメやデジタル・アート等他分野にも活用されており、若者への認知も拡大している**

競技の側面

- どれだけ速く登れたかを競う「スピード」、課題をいくつ登り切れたかを競う「ボルダリング」、どこまで高く登れたかを競う「リード」の3種目に分類される
- **2020東京五輪で初めて正式種目として採用**されたことで、スポーツクライミングを競技として楽しむ機運が上昇

イメージ画像

イメージ画像

イメージ画像

龍ヶ崎市出身の野口選手は、2020東京五輪に出場し、銅メダルを獲得。小学6年生で国内公式戦に初出場初優勝、16歳で迎えたシニア国際戦デビューの世界選手権でリード銅メダルを獲得、その後も表彰台に上がり続けてきた

非競技の側面

- イベントやツアーとの融合
 - 欧州を中心とし、**水道橋やダム等の建造物を登るイベント**を実施
 - 神奈川県主催の、**スポーツツーリズムの推進**による地域活性化に向けた「スポーツクライミング・ツーリズム」の実施
- サブ・カルチャーとの融合
 - 若者に人気の**デジタルアート、映像等とのコラボレーション**
 - ボルダリング・クライミング系漫画は既に30作品以上あり、**関連アニメは2024年に再放送等**サブカルチャーにも取り入れられている

イメージ画像

イメージ画像

イメージ画像

イメージ画像

龍ヶ崎市はたつのこアリーナにボルダリングウォールがあり市民がスポーツライミングに親しめる環境が整っている上、野口氏や檜崎選手といったスポーツライミングの第一人者の存在が大きい

龍ヶ崎市におけるスポーツライミングの状況

たつのこアリーナ（現・ニューライフアリーナ龍ヶ崎）（2018/2）

特徴

- 安価で手軽に利用できるボルダリングウォール
- 初心者から上級者まで楽しめる多種多様なルートがあり
- 安全設計が施され定期的な講習会やイベントも開催

場所

- 茨城県龍ヶ崎市中里3丁目2番1

設備概要

- 設備
高さ：4m
全長：7m
角度：85度・90度・100度

利用情報

- 利用時間：9:00~21:00
- 1時間当たりの利用料金

一般	高校生	小中学生・65歳以上の方・障がい者	未就学児
150円	100円	80円	無料



登り方を教える
野口選手

トップ選手在住

イメージ画像

野口 啓代

肩書：プロクライマー
誕生日：1989年5月30日
出身地：茨城県龍ヶ崎市

- 東京2020オリンピック 複合 銅
- ワールドカップ（ボルダリング）2009年、2010年、2014年、2015年 ワールドカップボルダリング年間優勝
- 世界選手権（ボルダリング）2007年、2018年、2019年：2位、2014年、2016年：3位、（リード）2005年3位、（コンバインド・3種目複合 スピード・ボルダリング・リード）2018年、2019年：2位

イメージ画像

檜崎 智亜

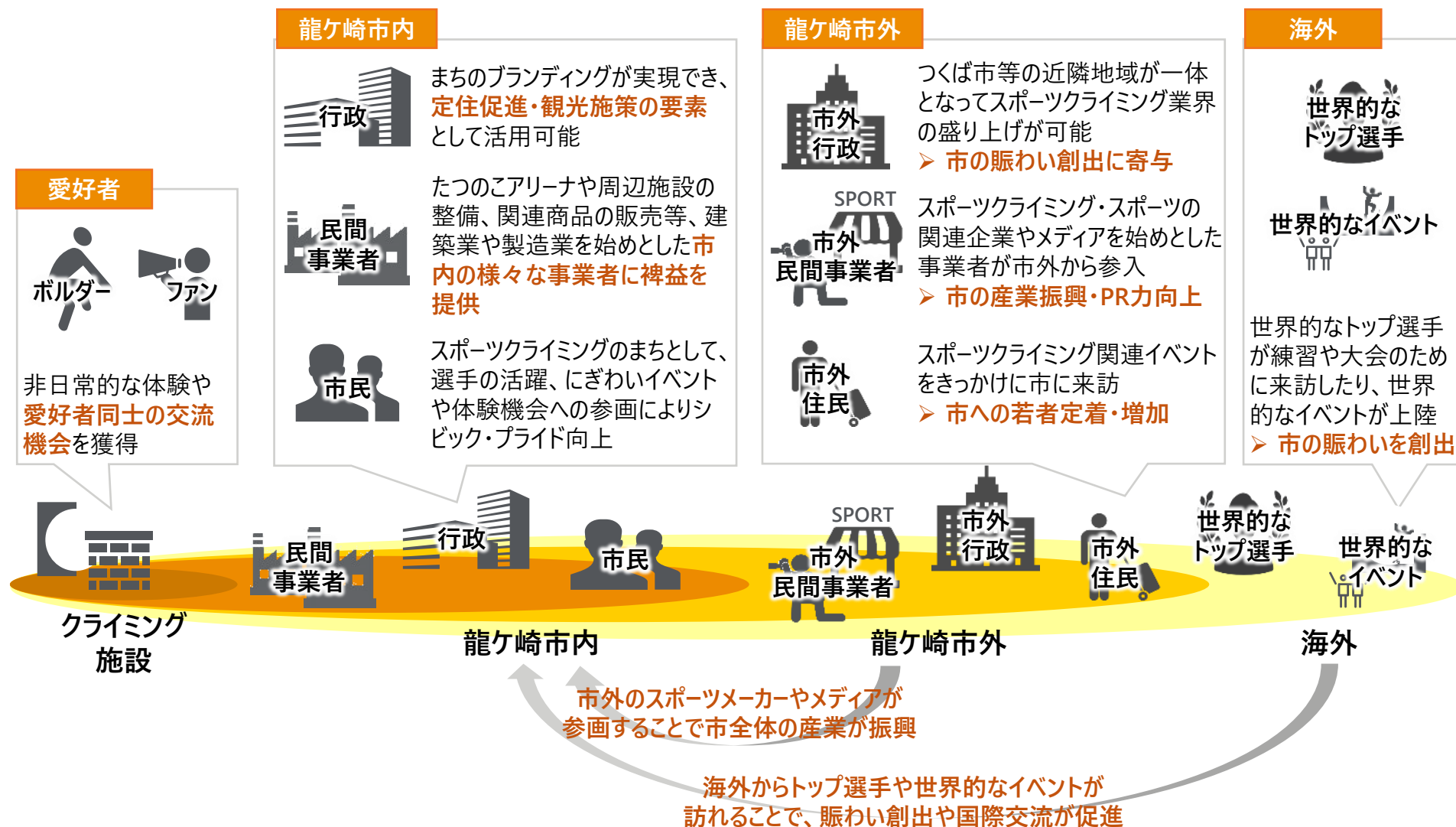
肩書：プロクライマー
誕生日：1996年6月22日
出身地：栃木県宇都宮市（現龍ヶ崎市在住）

- 東京2020オリンピック4位
- パリオリンピック2024出場
- ワールドカップ（ボルダリング）2016年、2019年 ワールドカップボルダリング年間優勝
- 世界選手権（ボルダリング）2016年、2019年：優勝、（コンバインド）2019年：優勝

出典：龍ヶ崎市総合体育館「たつのこアリーナ」(konamisportsclub.jp)、龍ヶ崎市総合体育館「たつのこアリーナ」ボルダリングウォール2月2日オープン！プロフリークライマー 野口 啓代 選手が母校の小中学生約160人にボルダリングの魅力を伝える！ | 茨城県龍ヶ崎市のプレスリリース (atpress.ne.jp)

スポーツライミングは市内の行政、事業者、市民に影響を与えるのみならず、市外／海外のステークホルダーを巻き込むことができ、市の賑わい創出や産業振興に寄与します

スポーツライミングがまちに与える価値



1. 本構想の位置づけ・目的

1-1. 基本構想の策定背景

1-2. 国のスポーツ振興の動向

1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

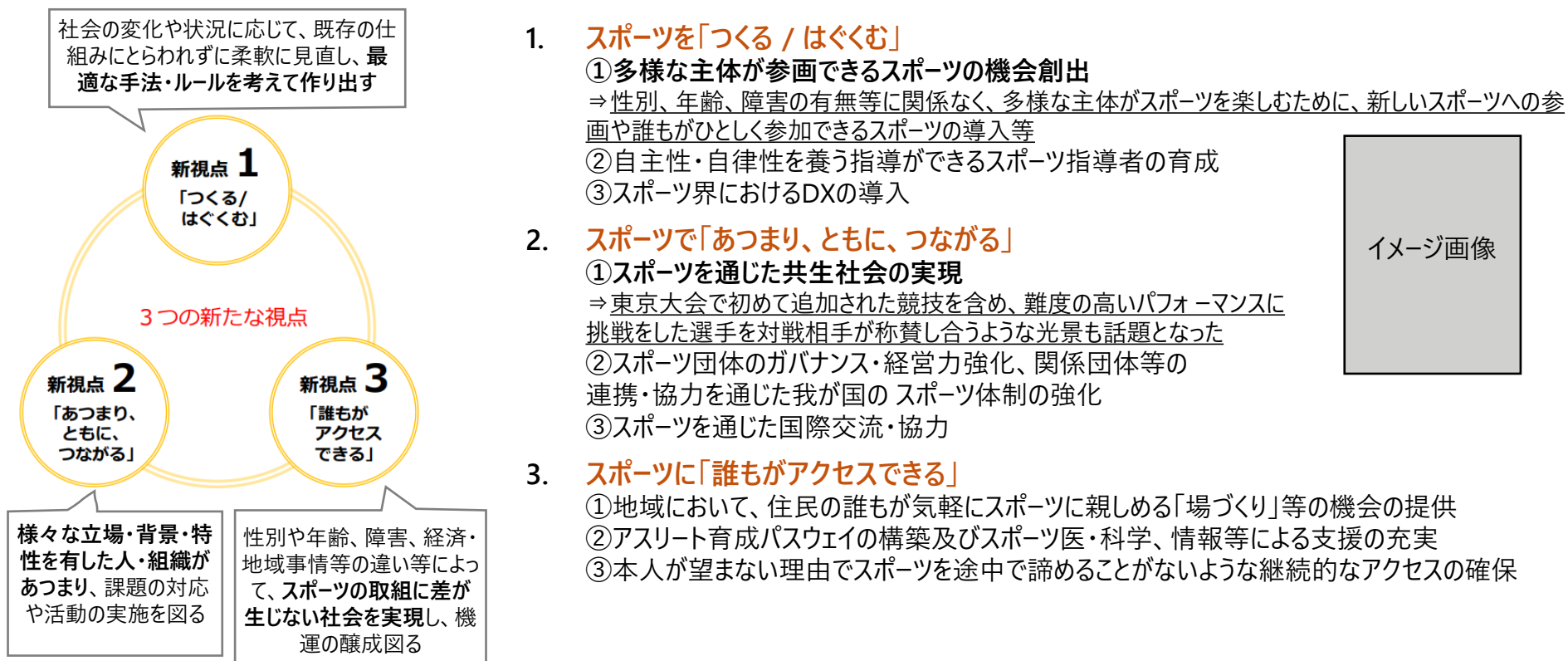
スポーツを通してより良い社会を実現するために、国としてはR4～R8年度にかけて3つの新たな視点を踏まえた施策実行を目指しています

国のスポーツ振興の動向

スポーツとは

「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質を持つもの

第3期スポーツ基本計画（R4～R8年度対象）にて新たに取り入れられた視点と具体的な施策



具体的には教育や健康増進、地方創生等の政策分野の解決も見込める12施策を、スポーツ庁にてR6年度現在も推進中です

スポーツ庁がR4～8年度にかけて取り組む施策

スポーツ庁として、「東京大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策」「新たな三つの視点」を支える具体的な施策」に掲げた施策も含めて、スポーツ庁として今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策12項目を制定

多様な主体におけるスポーツの機会創出

地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動部活動改革の推進、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上等

➢ 「広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出」として、性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様な主体がスポーツを楽しむためにアーバンスポーツ等の新しいスポーツへの参画や誰もがひとしく参加できるスポーツの導入等が具体施策に挙げられている

イメージ画像

6 スポーツの成長産業化

スポーツによる地方創生、まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加速化等

➢ スポーツによる地方創生においても重要な要素の一つである「スポーツツーリズムの更なる推進」の具体施策として、アーバンスポーツ、ワーケーション等の地域資源をいかした新たなコンテンツの開発や、DXの活用等新たな分野の開拓・チャレンジを積極的に推進することが具体施策に挙げられている

イメージ画像

1

2

スポーツ界におけるDXの推進

3

国際競技力の向上

4

スポーツの国際交流・協力

5

スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進、医療・介護や企業・保険者との連携強化等

➢ ①と同様に、「広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出」が具体施策に挙げられている

7

8

スポーツを通じた共生社会の実現

9

スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

10

スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

11

スポーツを実施する者の安全・安心の確保

12

スポーツ・インテグリティの確保

1. 本構想の位置づけ・目的

1-1. 基本構想の策定背景

1-2. 国のスポーツ振興の動向

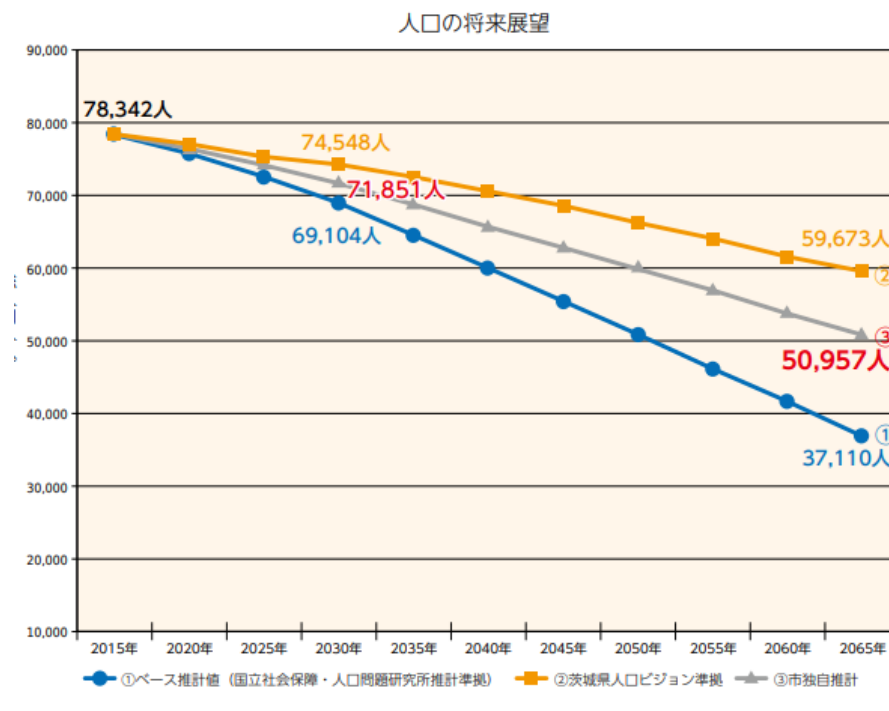
1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

人口減少に対して、合計特殊出生率の回復と転出抑制に効果が見込まれる「20代-30代の定住促進」「にぎわいづくり」に資する取り組みが求められています

本市の人口に関する現状と打ち手

将来人口推計

- 本市においても人口減少傾向は加速しており、将来的にそのスピードを緩やかにしていくためには、**国、県よりも低い合計特殊出生率の回復や若者世代の転出過多の改善に継続して取り組む必要がある**
- 出生率を国が見通す水準までに回復させることは現実的ではないため、**国が見通す水準よりも時間をかけて回復させるとともに若者世代の転出抑制に力点を置いて本市の現状に即した推計を行うと、2030年には71,851人、2065年には50,957人**

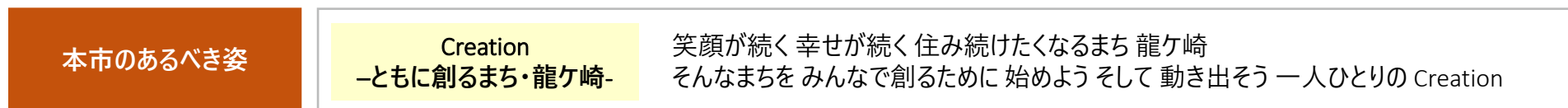


《2030年の目標》
72,000人

市独自推計の達成のためには、
特に「定住促進」「にぎわいづくり」に資する取り組みを行うことによる年少人口の維持・増加が必要

あるべき姿の実現のため龍ヶ崎みらい創造ビジョンfor2030では取組べき政策を分野ごとに「7つの政策の柱」、また共通項目を「政策実現に向けた横断的取組」として掲げています

みらい創造ビジョンfor2030の全体像



まちづくりの基本姿勢

①「自ら考え、行動する」から生まれる「協働」のまちづくり ②市民に信頼される「納得性」の高いまちづくり ③時代の変化に対応した「住みよい」まちづくり

政策 1	政策 2	政策 3	政策 4	政策 5	政策 6	政策 7
子どもや若者が健やかに育ち、一人ひとりの夢や希望を育むまちづくり	まちの元気を生み出す産業と交流のあるまちづくり	共に支え合い、誰もが健康に暮らせるまちづくり	誰もが自分らしく、生きがいを持って暮らせるまちづくり	安全・安心が実感できるまちづくり	機能的で、利便性が高いまちづくり	環境にやさしく、誰もが快適に暮らせるまちづくり
1. 子ども・子育て支援の充実 2. 「夢」を持ち「生きる力」を育む教育の推進 3. 若者世代の活躍支援と定住促進	1. 地域経済の活性化 2. 多様な働き方と働く場の創出 3. 地域資源を活用した観光まちづくりの推進 4. 流通経済大学との連携の推進	1. 支え合う地域福祉の実現 2. 健康長寿社会の実現 3. 地域医療体制・感染症対策の強化 4. 社会保障制度の適正な運営	1. 誰もが楽しめる生涯スポーツ社会の実現 2. 暮らしを豊かにする生涯学習・文化芸術活動の推進 3. 多様性を認め尊重し合う、共生社会の実現	1. 防災・減災対策の推進 2. 消防・救命体制の充実 3. 暮らしの安全・安心の確保	1. 魅力ある都市拠点の形成 2. 快適でシームレスな移動環境の構築 3. 良好な住環境の維持・創出	1. 環境負荷の少ない地域社会の形成 2. 自然環境の保全と環境美化の推進 3. 機能的な都市インフラと暮らしを支える生活インフラの維持・整備

横断的取組 8

市民と共に育む
持続可能なまちづくり

1. 市民主体のまちづくりの推進 2. S D G s の推進 3. 効率的で透明性の高い市政運営 4. 効果的なシティプロモーション 5. 公共施設の「縮充」の推進 6. 電子自治体の推進 7. 持続可能な財政運営

特に政策4の中では誰もが楽しめる生涯スポーツ社会の実現に向けて、スポーツクライミングとの連携も検討されている

「誰もが楽しめる生涯スポーツ社会の実現」の詳細

政策の柱

4 誰もが自分らしく、
生きがいを持って暮らせるまちづくり

【代表的なSDGsとの関連】

施策

(1) 誰もが楽しめる生涯スポーツ社会の実現

リーディングプロジェクト
Leading 魅力創造 Project

<施策が目指す龍ヶ崎の姿・イメージ>

- 誰もが気軽にスポーツ・運動に親しめる環境が整っています。
- スポーツ・運動を通じて心身ともに健全で充実した暮らしができています。

① 現状と課題

- 健康意識の向上などに伴い、市民のスポーツ・運動に対するニーズは多様化しています。市民ニーズに沿った生涯スポーツの推進を図る必要があります。
- スポーツ・運動に関心のない市民も一定程度存在します。そのため、身近で手軽にできるスポーツ・運動を通じ、市民に対する健康づくりの意識を浸透させる必要があります。
- 少子高齢化の進行により、スポーツ少年団などの組織や団体数が減少し、スポーツ団体の役員や競技団体指導者の高齢化が進んでいます。競技スポーツ人口を増やすためには、組織の活性化や指導者の育成・充実が必要となっています。
- 総合運動公園を中心に、市民のスポーツ・運動を行うための環境は、一定の整備がなされています。健康で活力のある市民生活や地域社会の活性化のため、誰もが利用しやすい施設となるよう、それぞれの施設の機能の向上に努めていく必要があります。
- 健康意識の向上に伴い、スポーツジムなど、スポーツに関連する民間施設の増加もみられることから、需要と供給のバランスを考慮する必要があります。
- にぎわいづくりや地域活性化の資源として、本市の持つスポーツ環境や人的資源を活かした施策展開が期待されています。

② 施策の展開方向

施策の展開方向	方向性
① スポーツ・運動を通じた生きがいづくり	- 子どもから大人まで、また、障がいの有無などに関わらず、誰もが気軽に参加し、楽しむことのできるスポーツ・運動の機会を充実します。 - 市民のスポーツに対するニーズに対応するため、各スポーツ団体などとの連携を強化します。
② 競技スポーツの推進	- 各種スポーツ団体が行う、競技の普及や技術向上を図るための事業、指導者の指導力向上を図るための取組を支援します。 - 大学スポーツで輝かしい実績を誇る流通経済大学運動部との連携を強化し、アスリートの競技力向上を図る取組を促進します。
③ スポーツによるにぎわいづくり	- 本市とゆかりのあるオリンピックや各競技のトップアスリートとの連携を強化し、競技スポーツの魅力や楽しさを発信し、スポーツ人口の増加に向けた取組を推進します。 - スポーツを基軸とした産学官連携^{※1}の取組により、プロスポーツの公式戦やスポーツイベントを開催し、交流人口の増加を図るとともに、市民のスポーツに対する意識の向上とにぎわいの創出を図ります。
④ スポーツ環境の充実	- 誰もが利用しやすいスポーツ施設の充実に努めます。また、本市のスポーツ施設の周知PRを強化し、利用促進を図ります。 - 地域住民の身近にある施設において、スポーツ・運動での利用を促進し、市民がスポーツ・運動に触れる環境を整えます。

③ 成果指標（重要業績成果指標）

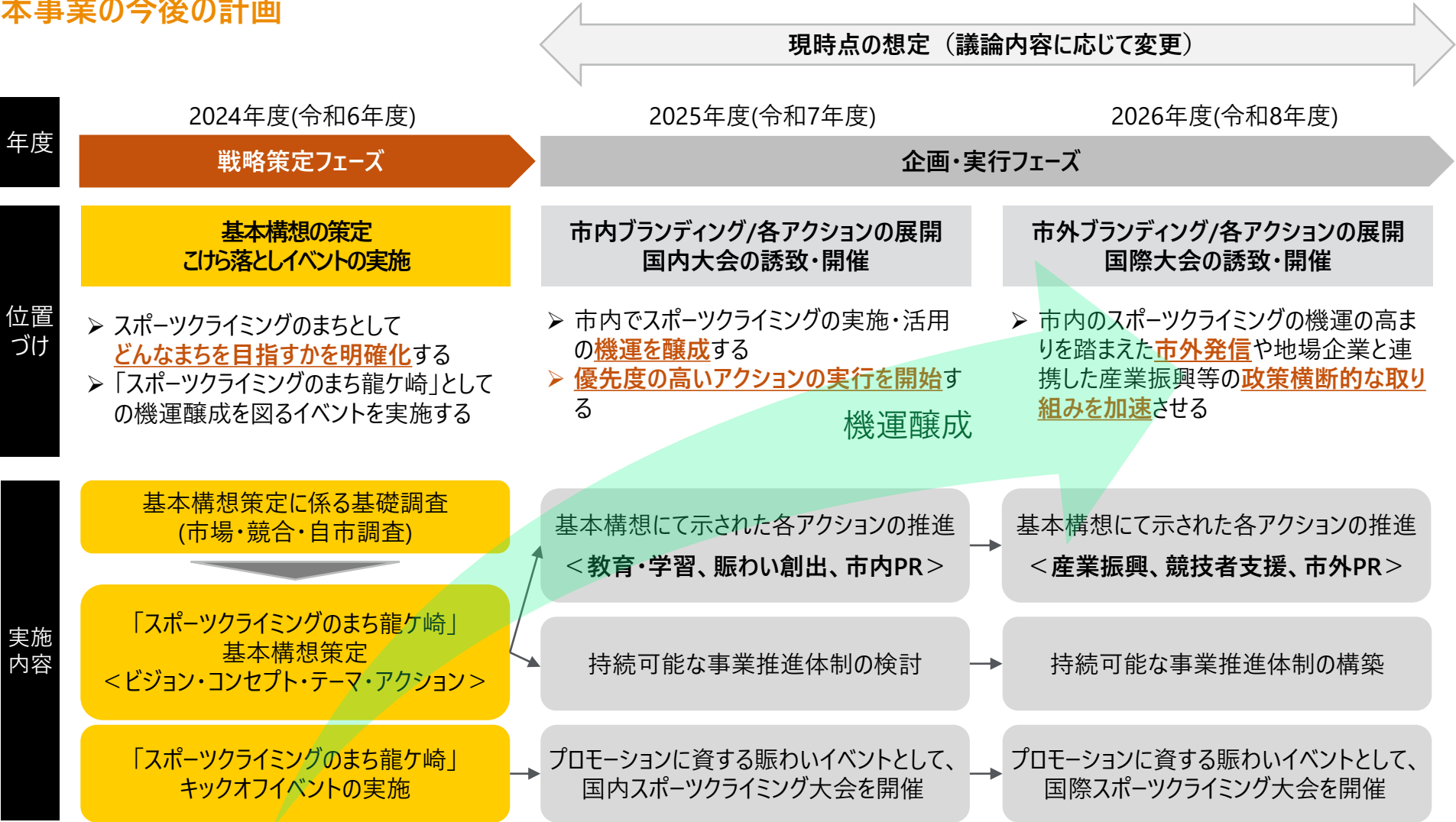
指 標 名	ベース値			目標値
出 典	数値の増減の状況			
体を動かし、スポーツ等に親しむ機会・施設への満足度	49.9% [2016年]	51.4% [2018年]	47.7% [2021年]	52.0% [2026年]
まちづくり市民アンケート	↗ 1.5 ↘ 3.7 ↗ 4.3			
たつのこアリーナ（メインアリーナ）の稼働率	—	86.0% [2018年]	65.0% [2021年]	86.0% [2026年]
市独自調査	— ↘ 21.0 ↗ 21.0			
たつのこフィールドの稼働率	—	63.0% [2018年]	62.0% [2021年]	63.0% [2026年]
市独自調査	— ↘ 1.0 ↗ 1.0			
たつのこスタジアムの稼働率	—	40.0% [2018年]	35.0% [2021年]	40.0% [2026年]
市独自調査	— ↘ 5.0 ↗ 5.0			

2. 策定方法

2-1. 仮説検証型の策定プロセス

国の補助制度の活用を見据えた3カ年での事業展開を見込んでおり、基本構想に基づき優先度を考慮して各アクションを実行します

本事業の今後の計画



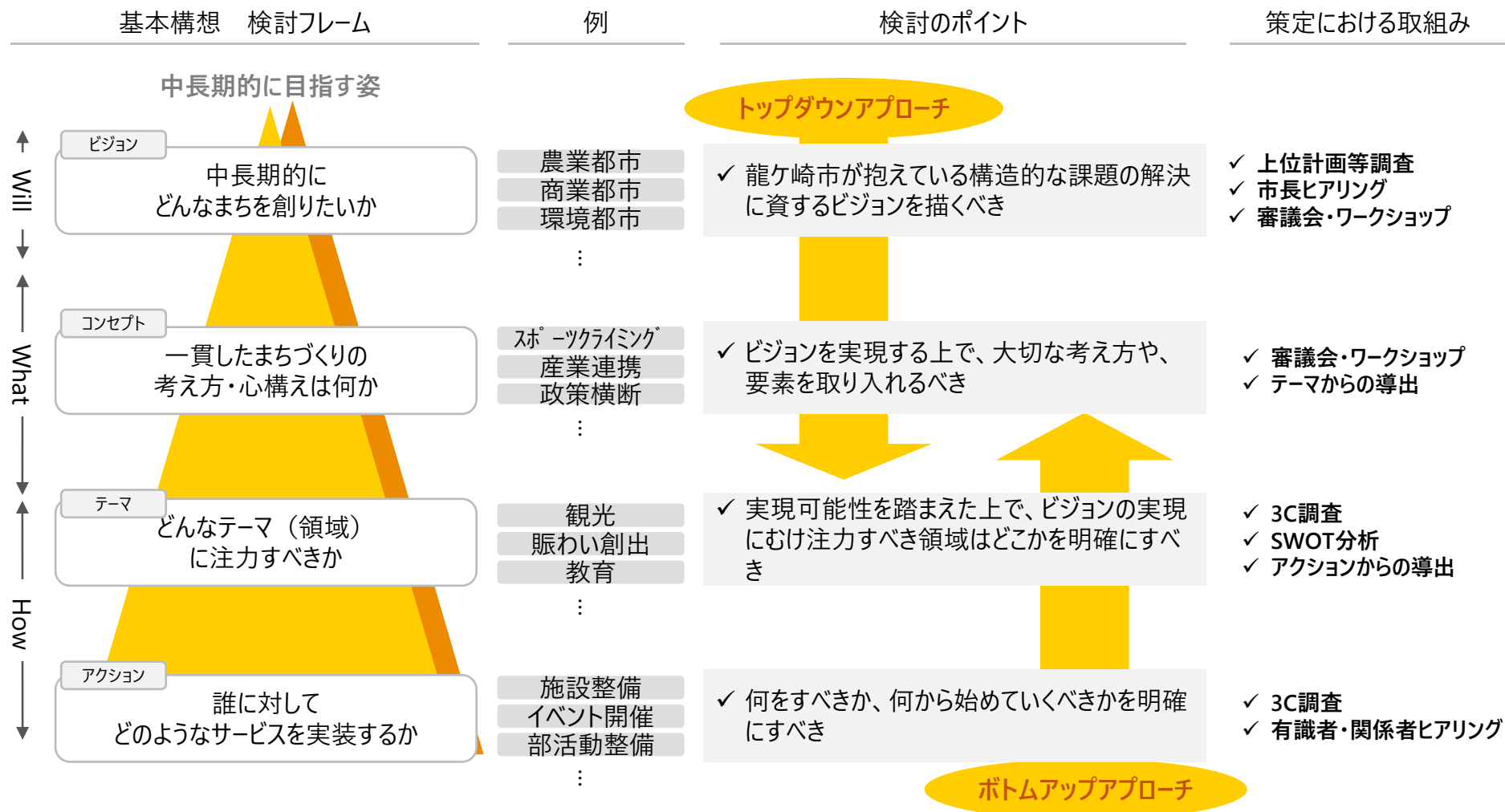
「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」基本構想では、 調査結果を基にしたビジョン・コンセプト・施策内容を記載します

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」基本構想骨子案

#	大項目	記載内容
1.	本構想の位置づけ・目的	➤ 基本構想の策定背景 ➤ 国・県のスポーツ振興の動向 ➤ 上位計画を踏まえた位置づけ
2.	策定方法	➤ 仮説検証型の策定プロセス
3.	基本構想の検討に向けた調査	➤ 調査設計 ➤ 調査方法
	外部環境調査	➤ 市場調査結果 ➤ 競合他都市調査結果
	内部環境調査	➤ 自市資源調査結果
4.	ビジョン・コンセプト	➤ 計画全体像 ➤ ビジョン ➤ コンセプト
5.	施策内容	➤ テーマ ➤ アクション（ソフト施策・ハード施策）
6.	ロードマップ	➤ 取組のステップ

基本構想にて定めるべきビジョン、コンセプト、テーマ、アクションについて、トップダウン・ボトムアップの双方向から検討・整理し、計画を策定します

基本構想の考え方

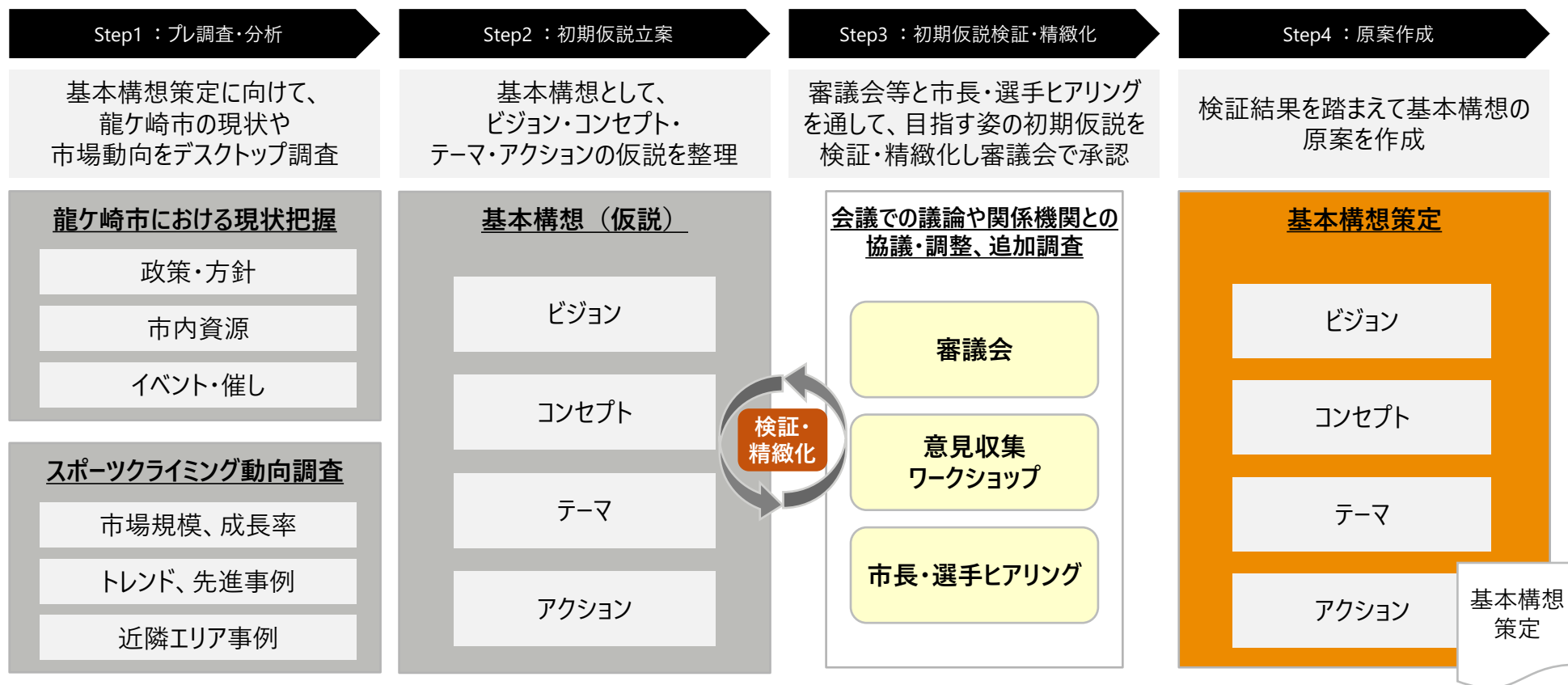


基本構想の策定に向けて、調査・分析結果から導出した目指す姿の仮説を基に、ヒアリングや審議会等を通して基本構想に落とし込みます

基本構想策定アプローチ

基本構想作成のポイント

- 龍ケ崎市の現状や市場動向の調査結果を基に、スポーツライミングのまちとして目指す姿の初期仮説を作成し、**市内ステークホルダーの想いや実現性に関するご意見を踏まえた精緻化を行う**ことで、基本構想の原案作成を行う



3. 基本構想の検討に向けた調査

3-1. 調査設計

3-2. 外部環境調査

3-3. 内部環境調査

基本構想策定に必要な情報の収集に、3C(自社：Company、市場：Customer、競合：Competitor)の観点を採用し、調査を実施します

調査項目

		調査項目	調査方法	
外部環境調査	市場調査	市場規模・ トレンド調査	✓ スポーツライミングの特徴 ✓ スポーツライミングに関するトレンドや先進事例 ✓ スポーツライミングの市場規模や成長率	✓ デスクトップ調査※1 ✓ 市場レポート ✓ ヒアリング調査※2
	競合調査	近隣・遠方も含めた スポーツによる まちづくり実施自治体	✓ 茨城県内/外におけるスポーツライミングの施設調査 ✓ 茨城県内/外でスポーツライミングによる地域活性化を行っている自治体の動向調査	✓ デスクトップ調査※1
内部環境調査	自市調査	スポーツライミングに 関する地域調査	✓ スポーツライミングを通じた地域活性化に必要な資源、戦略に 合致する資源の調査 ✓ 観光地、飲食、宿泊施設、イベント会場・賑わい拠点等の調査	✓ デスクトップ調査※1 ✓ ワークショップ※3 ✓ ヒアリング調査※2 ✓ アンケート調査

※1：デスクトップ調査：公開情報、WEB、SNSなどデジタルチャネルの外部ツールで情報取得

※2：ヒアリング調査：龍ヶ崎市や弊社のネットワークにより対象者を選出

※3：ワークショップを実施

3. 基本構想の検討に向けた調査

3-1. 調査設計

3-2. 外部環境調査

3-3. 内部環境調査

スポーツクライミングには、スピード・ボルダリング・リードの三種目あり、それらの組み合わせがオリンピックの開催年度ごとに見直しがされている

スポーツクライミングの種別

- どれだけ速く登れたかを競う「スピード」、課題をいくつ登り切れたかを競う「ボルダリング」、どこまで高く登れたかを競う「リード」の3種目がある
- 東京五輪ではこれら3種目を1人で行う複合（コンバインド）、パリ2024オリンピックでは、「ボルダリング&リード複合」と「スピード」の2種目が行われた

スピード



- **高さ15m、95度に前傾した壁にセットされた世界共通**のコースを用いる
- 選手は命綱であるロープを装着し、最上部のゴールパッドを目標に駆け上がる

■ 男子スピード

世界記録：4秒90（レオナルド・ベドリック）
日本記録：5秒07（大政涼）

■ 女子スピード

世界記録：6秒24（アレクサンドラ・ミロスワフ）
日本記録：7秒43（林かりん）

ボルダリング



- **高さ4～5mで様々な傾斜がある壁の複数の課題**（ホールドの配置で作られたコース）を登り、課題の最上部にある「TOPホールド」を両手で保持すれば完登となる
- **中間部には「ゾーン（ZONE）」のマークがついたホールドが設定され、そこに到達できたかどうか「ゾーン獲得数」として成績に反映される**
- ボルダーの場合は途中で落ちたとしても制限時間内であれば**何度も挑戦**できる

リード



- **高さ12m以上の壁に設けられた1つの課題**を、ロープを支点にかけることで安全を確保しながら制限時間6分以内に登る
- トップホールドを保持した上で、最後の支点到ロープをクリップすると完登となる
- ホールドには番号が振られ、上に進むほどその数は大きくなる
- 3種目複合におけるリードの手数は40前後であることが多い

スポーツクライミングはオリンピックでの日本選手の活躍により注目を集めており、近年は施設数も増加、一般層にも広く認知され、楽しみ方の幅が拡大しています

国内におけるスポーツクライミングの歴史

- 日本では1980年代に人口壁が登場して以降スポーツ化が進み、日本選手は早くから**世界で活躍**しており、**スポーツクライミング文化が徐々に定着**
- 東京オリンピックの正式種目に採用されたことを機に、アスリートの活躍とともに**国内のクライミング人気**がさらに増加。また、**アーバンスポーツ**として知名度を高め一般層にも広く認知され、子供から大人まで手軽に楽しむことができるスポーツの1つとなった。

1980年代

- 1980年代前半、海外からフリークライミングが伝来し、**愛好家たちによって人工壁が作られ始めた**

イメージ画像

- 1989年に大阪で**日本初の室内クライミングジム**「CITYROCKGYM」が開設

イメージ画像

1990年代～

- 1998年、リードの平山ユージ選手が**日本人初のワールドカップ総合優勝**

イメージ画像

- 2016年、ボルダリングで榎崎智亜選手が**日本人初の世界選手権優勝**

イメージ画像

2020年～（現代）

- **クライミングジムの数は年々増加**、2019年には全国で500施設を超え、**市場規模も増加傾向**

イメージ画像

- 2020年**東京オリンピックの正式種目に採用**されたことを機に、注目を集め競技人口は急増

イメージ画像

- 健康ブームやレジャーの多様化、メディアでの露出増加などにより、クライミング・ボルダリングは**一般層にも広く認知**されるようになる

イメージ画像

- 「遊び」の延長として、街中や公園など手軽に始めることができる**アーバンスポーツ**として広がっている

イメージ画像

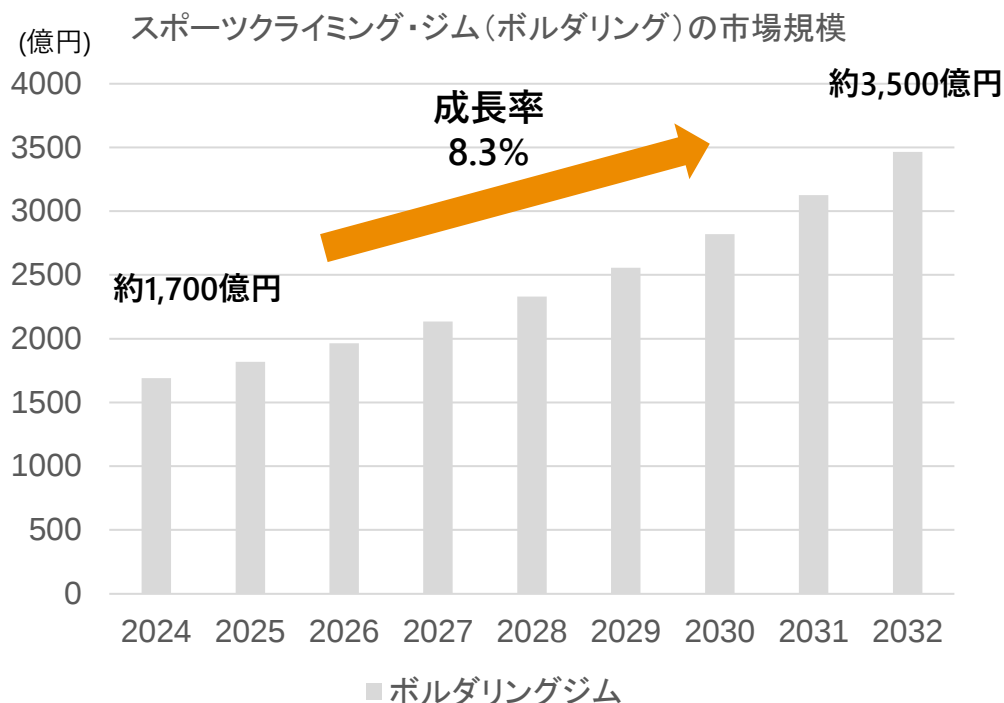
スポーツクライミングの世界の市場規模は、2024年の約1,700億円から、成長率8.3%ペースで拡大し、2032年には約3,500億円になる見込みから、成長市場であると予測されます

※1ドル=153.4円で換算

スポーツクライミングの市場（世界）

- スポーツクライミングの世界的な市場規模は、2024年の1,700億円から**成長率8.3%ペースで拡大し、2032年には3,500億円規模**になると推計
- ボルダリングジムを中心に大きく成長し、2020年の東京オリンピックでクライミングが登録、アーバンスポーツとして認知度の向上が、市場の成長を促進
- 北米、ヨーロッパ、アジアを中心に市場規模が拡大すると推計

スポーツクライミングの世界市場規模



成長要因

健康志向の高まり

フィットネスや健康的なライフスタイルについての意識向上が市場成長を後押し

オリンピック種目としての登録

オリンピックの競技種目として東京2020大会から採用され、今後も競争上の優位性を大幅に高める

アーバンスポーツとしての認知度向上

省スペースでも出来る都市型のスポーツとして、ジムの増加や、エンタメ性が高く観戦者も楽しめるイベントや大会が多く開催

地域ごとの特色（抜粋版）



北米

2023年、総クライミングジム市場の約35%で、最大のシェア。設計・設備・技術により、**体験の魅力**が強み



欧州

山岳地帯が多く、登山やクライミングが伝統的な趣味～競技。根強い人気。最も急速に成長する地域



アジア

東京五輪以降の効果や日本、韓国、中国での**ジムの増加**や、**若手育成**に注力から市場として成長中

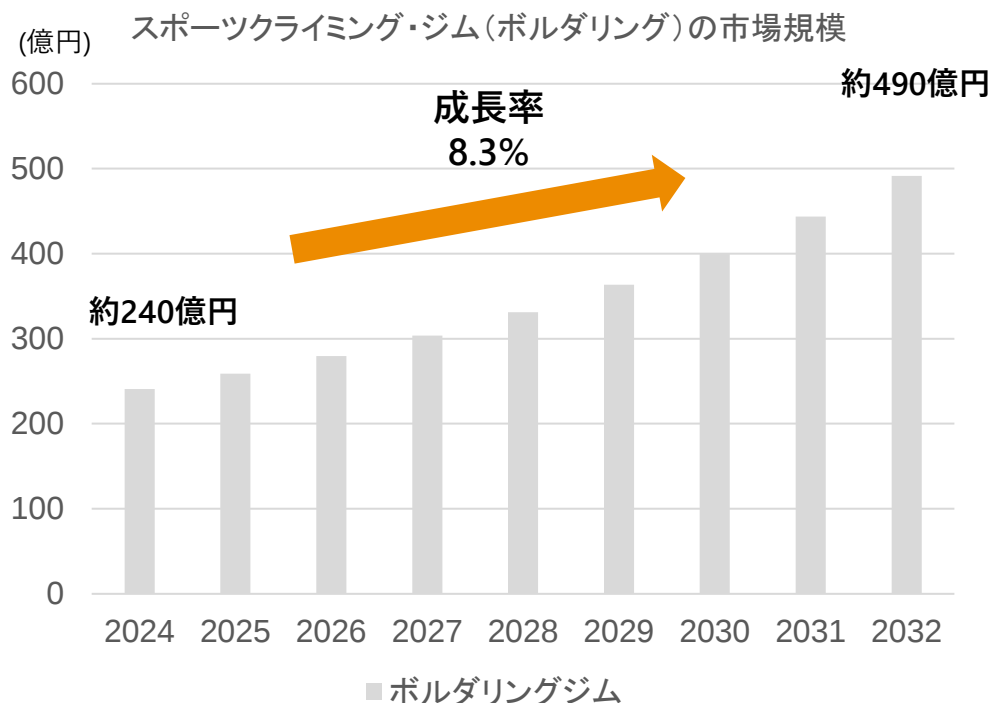
スポーツクライミングの国内市場規模は、2024年の約240億円から、成長率8.3%ペースで拡大し、2032年には約490億円になることが見込まれ、成長市場であると予測されます

※1ドル=153.4円で換算

スポーツクライミングの市場（国内）

- スポーツクライミングの日本市場の規模は、2024年の240億円から**成長率8.3%ペースで拡大し、2032年には490億円規模**になると推計
- 健康志向、2020年の東京オリンピックでクライミングが登録され、国内選手の活躍・アーバンスポーツとして認知度の向上が、市場の成長を促進

スポーツクライミングの国内市場規模



成長要因

都心部でのニーズ増加

都市部では人口が密集しているため、屋外での登山の選択肢が限られており、屋内ジムでの、クライミングの人気が増加

フィットネスとレクリエーションの融合

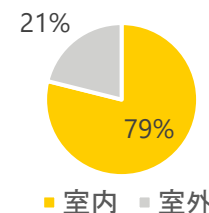
オリンピックにより認知が拡大。初心者から上級者まで幅広いクライマーに対応できる、体験の機会が増加

強力なコミュニティの構築

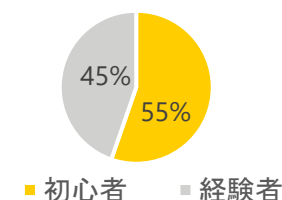
仲間意識を育むためのイベントや大会、教育プログラムを多く開催し、クライミング文化が醸成。特に若い顧客を引き付ける

国内のクライミング市場の特徴

施設（内・外）の市場規模の割合（2024年）推定値



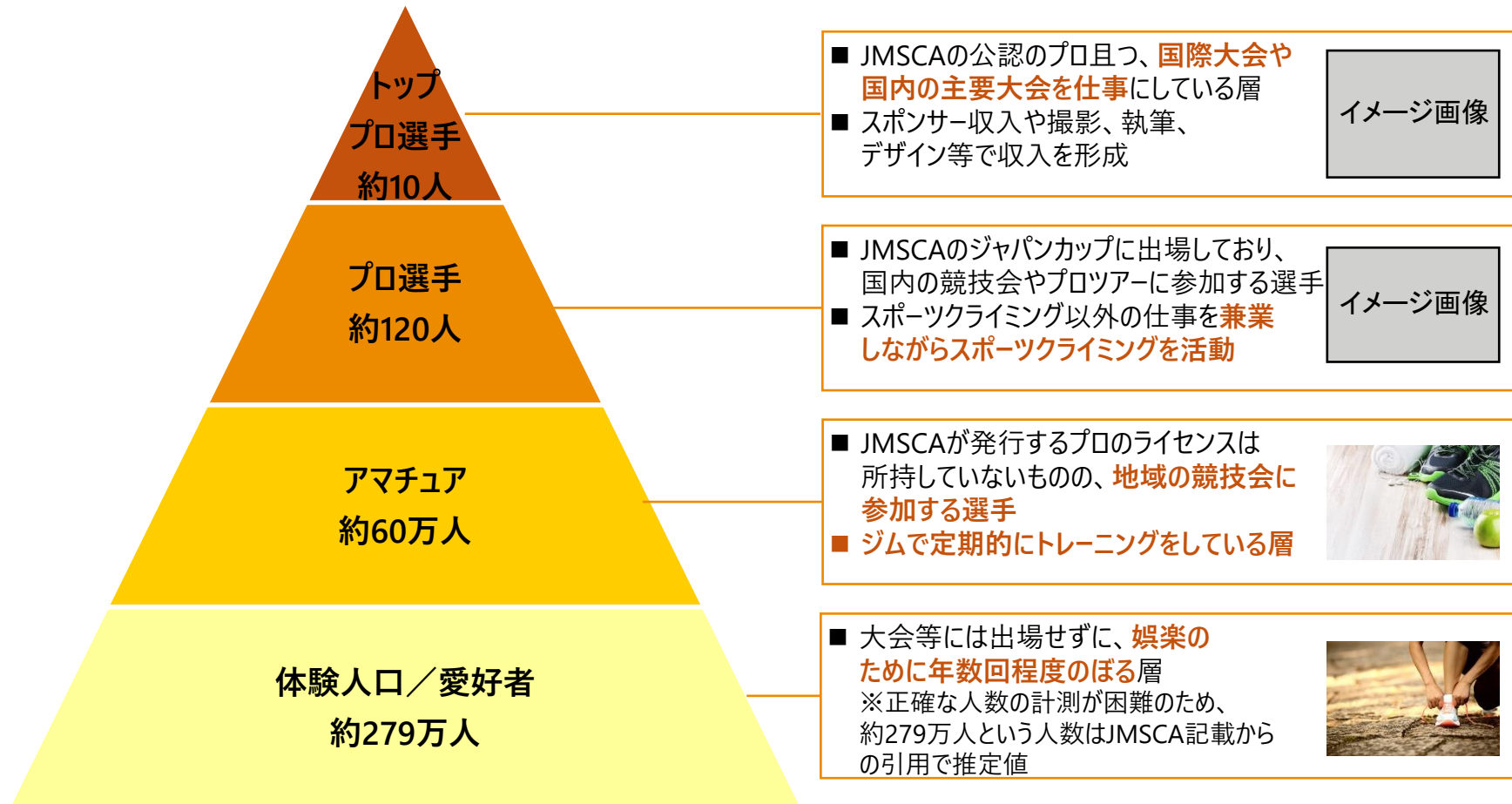
コース（初心者・経験者）の市場規模の割合（2024年）推定値



国内には推定推定約279万人のスポーツクライミング愛好者がいるが、専業で十分な収入が得られるプロのクライマーは10人程度です

国内クライマーの階層図

- 体験人口／愛好者は正確な人数は不明ではありつつ、かねてより**業界内では約279万人**と推定
- 国内で開催される大会には多くのクライマーが参加するが、スポーツクライミングのみを仕事にしているクライマーはごく一部に過ぎず、**兼業のプロ選手やアマチュアが多数**



世界150カ国に2,500万人以上のクライマーがいるとされ、その39%は18歳以下と言われ、体と頭の両方を使った「達成感」の獲得は、クライミングの魅力の1つとされます

スポーツクライミングの人気拡大

- スポーツクライミングは、過去20年間で**人気が拡大した都市型スポーツ**のひとつ
- 世界に**2,500万人以上のクライマー**がいるとされ、**約4割**が若者に人気のスポーツ
- クライミングの魅力の第1位は、「**達成感**」を感じることである

スポーツクライミングの若者人気

世界150カ国に2,500万人以上のクライマーがおり、その**39%は18歳以下**

クライマーの
10人中4人は
18歳以下！



スポーツクライミングに触れるきっかけは、**子どもからの積極的な発信の場合もあり**



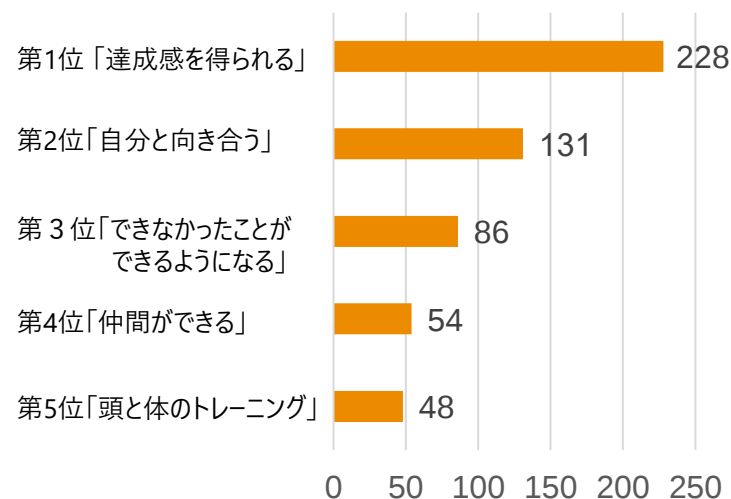
「親が子にさせるのではなく、子が『やりたい』と言って親や祖父母を連れてくる」

日本山岳・スポーツクライミング協会
尾形好雄専務理事

クライミングの魅力

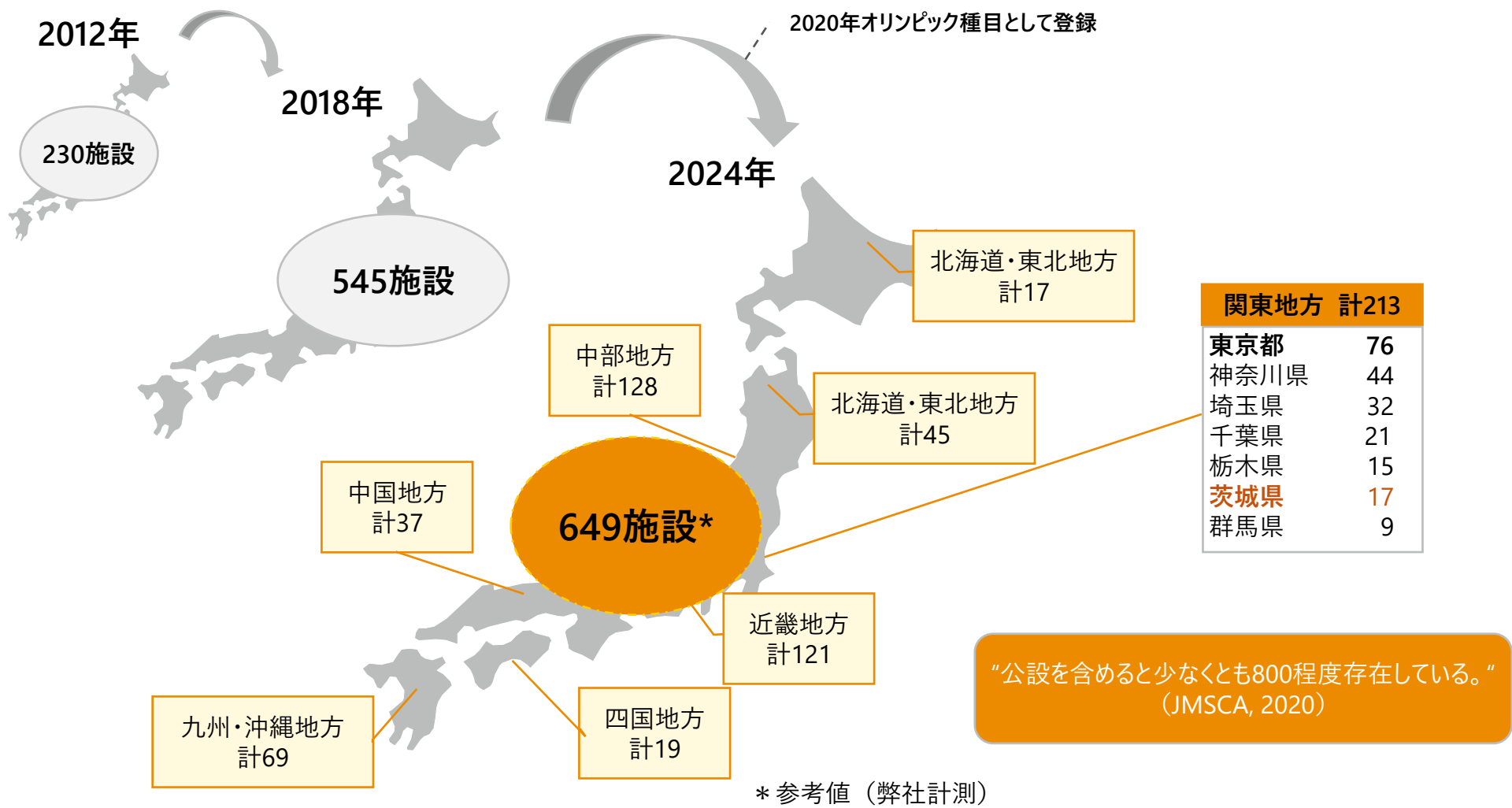
体と頭を使ってルート攻略する「**達成感**」にはまる人が多い

国内のクライマー700人へのアンケートよりベスト5位



クライミングジム数は急増し、2024年時点で646施設を記録し、公設を含めると少なくとも800程度存在すると言われる。東京都が最も多くのクライミング施設を有しています

国内公共クライミング施設数の推移



クライミングジム数の増加は、経営の高度化・顧客の多様化・まちづくり等を通じて、あらゆる年齢層の顧客を引き付けています

クライミング施設の増加による波及効果

ジムの変化



施設の差別化

- 五輪種目に採用後に需要が増加し、**種目に対応可能な施設が増加**
- 定番のトップロープやリードクライミングはもちろん、人気のボルダリングジムなどの**専門的な施設が増加**
- スピードクライミングウォールや、初心者ゾーンなどのユニークな機能を統合し、多様な層へ**魅力を発信が激化**

顧客の変化



需要の多様化

- 競技選手：**世界の標準化された施設利用**や**国際大会が増加**
- 若者：器具を使わない**ボルダリング中心の施設が、特に人気拡大**
- 家族連れ：**初心者が自信をつけられるような初心者向けのゾーンや体験プログラムへ参加増加**

まちの変化



コミュニティ構築・醸成

- 初心者コースと上級者コースをクライミングジムに戦略的に統合し、包括的な**クライミングエコシステムを構築**
- 都市部では、**革新的な壁のデザイン、トレーニングエリア、社交スペースにも投資し**、初心者も経験者も魅了
- 顧客層の拡大だけでなく、**コミュニティの醸成を促進**



経営の高度化

- 最新技術による安全管理、データ分析等を活用し、**安全性と効率性を高めるだけでなく顧客満足度が向上**
- ユーザーの好みに関する情報を得て、**ターゲットマーケティングを促進**
- 環境にやさしい素材やエネルギーシステム等の活用が促進



若者の学びを促進

- 肉体的・精神的な挑戦**とクライミングジムの社会的側面にも魅力を感じる**10代クライマーが増加**
- 若者向けの**ユースコンテスト、ピア・ラーニング**の機会に参加増加



ライフスタイルのきっかけ

- 健康とフィットネスの意識が向上
- ヨガスタジオやフィットネスセンター、カフェなどの設備を備えた室内の**総合的な「クライミング・ライフスタイル」の拠点へと進化**
- カジュアルな観光客や家族連れも引き付け**、新たな体験の場が増加

世界から日本のスポーツクライミング業界が注目されることで世界大会の誘致も実現でき、結果として増加が続く未来のクライマー育成への施策も、高い効果が期待できます

国内スポーツクライミング大会の近況

* リード（登る高さを競う）、ボルダリング（何回登れるかを競う）、スピード（登るスピードを競う）

プロ

- オリンピックで多くの日本人選手が活躍
- 試合への来場はもちろんのこと、Youtube等を通じたオンラインでも多くの観客を獲得し、愛好者増加に寄与

IFSC クライミングワールドカップ

(IFSC Climbing World Cup)

- 国際スポーツクライミング連盟（IFSC）主催の世界的な大会
- 世界中のトップクライマーが参加
- Youtubeで配信されている森彩選手の動画は、52万回再生を記録

IFSC 世界選手権

(IFSC World Championships)

- 2年ごとに開催される世界選手権
- 3種目*それぞれの世界一を決定

イメージ画像

ジャパンカップ

(JAPAN CUP)

- 日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）が主催する国内最高峰の大会
- 日本のトップクライマーが終結

アマチュア

- 東京五輪以降、クライミング人気増加し、ウォールが設置されたジム等も増加しトレーニングの一端として利用
- アマチュア向けや子ども向けの大会も増加

ボルダリングジャパンカップ

(Bouldering Japan Cup)

- JMSCA主催のアマチュアクライマー向けの大会
- 全国からアマチュアクライマーが参加

全日本学生スポーツクライミング選手権大会

- 学生を対象とした全国大会
- 大学や高校のクライミング部が参加

イメージ画像

キッズクライミング大会

- 子ども向けの大会
- 全国各地で開催され、未来のトップクライマーを育成するための重要なイベントと位置づけ

体験・愛好家

- 東京五輪以降、世界的に有名なアーバンスポーツの1つとして認知
- 子ども向けの体験イベントの増加に加えて、企業とのコラボレーションで観客も楽しめるイベントが増加

THE NORTH FACE CUP

- プロ・アマ問わず参加する国内最大規模の大会
- 豪華なセッター陣が刺激ある課題を用意

イメージ画像

RED BULL CREEPERS

- レッドブルが主催するユニークなクライミング大会
- 特設屋外壁等で行われ観客も楽しめるイベント

イメージ画像

子ども向けの体験会

- 子ども向け体験イベント
- 全国各地で開催され、未来のトップクライマーをのきかけや提供
- プロ選手が指導等もあり



全国的に見て、スポーツクライミングでまちづくりをしている例はあり、賑わい創出、人材育成、資金調達等で特徴的な取り組みをしています

スポーツクライミング×まちづくり（遠方）の先進的な事例

		代表的な施設	代表的な取組
1 三重県 伊賀市	イメージ画像	■ 施設名称 DMG MORIアリーナ ■ 利用料金（一般） 1日：2,000円 ■ 利用できる種目 一競技場、クライミングウォール等	■ 三重県所有の「ゆめドームうえの」を工作機械メーカーのDMG森精機株式会社が取得および改修工事を行った屋内体育施設 ■ 健康づくりやスポーツ振興を図るとともに、地域の交流拠点として1600人の観客を収容可能 ■ 3種目壁が常設しており、国際大会基準のポテンシャルを誇る ■ DMG森精機が約5億円で取得、改修に約7.8億円
2 佐賀 多久市	イメージ画像	■ 施設名称 九州クライミングベースSAGA ■ 利用料金（一般） 1人当たり1000円 ■ 利用できる種目 クライミングウォール、キルターボード等	■ 多久高校はの強豪高であり、世界で活躍する選手も輩出 ■ 2002年に指導者がいたことや、2023年に県内での選手育成にさらに力を入れようと、別の新しいクライミング施設を設置 ■ 登る高さを競う「リード」、右が登る速さを競う「スピード」のそれぞれ高さはおよそ15mであり、3つの壁が同じ施設に揃っているのは九州初、しかも世界大会が開催できる“世界基準”の設備 ■ 県が7.4億円かけて整備
3 東京都 昭島市	イメージ画像	■ 施設名称 モリパークスポーツ ウォール & スタジオ ■ 利用料金（一般） 平日1日：2,200円 ■ 利用できる種目 スポーツクライミング、ヨガ施設等	■ 左記施設は2022/10にリブランドさせ、他にはない緑豊かな環境の中、ワールドクラスの大会も可能な大型クライミングウォールを備えたクライミングジムと、高級感と清潔感のあるスタジオで様々なアクティビティを提供 ■ 経験豊富なインストラクターがビギナーからエキスパートまで本格的にサポート ■ 昭和飛行機都市開発株式会社の保有する商業施設
4 埼玉県 小鹿野町	イメージ画像	■ 施設名称 クライミングパーク神怡館 ■ 競技場の利用料金（一般） 1日：1500～1800円 ■ 設備情報 クライミングウォール、キッズスペース等	■ 国内ロッククライマーから人気の岩場である二子山の岩壁にて、レベル別にクライミングルートを設計。また、小鹿野クライミング協会と町の消防署の間で、危険な場所や救助時の誘導方法などを検討 ■ 町民にクライミングの魅力を伝えるべく、世界的プロクライマーが中心となって国内ボルダリング施設をオープン ■ 小鹿野町のクライミングによるまちおこし事業費として改修予算約1.5億円

全国的に見て、スポーツでまちづくりをしている例はあり、推進体制や競技特性において親和性があり先進的な取り組みを参考に出来る可能性があります

スポーツ×まちづくりの先進的な事例

	代表的な施設／場所	代表的な取組
1 静岡県 沼津市	 ■ 施設名称 F3BASE ■ 利用料金（一般） 1H：約1500円 ■ 設備情報 フェンシングゾーン、フリースペース等	■ 「フェンシングのまち沼津」のブランド形成に向けた取組を推進するために「 フェンシングのまち沼津推進協議会 」を官民連携で設立 ■ 合宿や大会の誘致に注力しており、R4年度は既に国内大規模大会1件、日本代表合宿2件を招致 ■ 体験会や練習会、トップ選手育成も積極的に実施しており、フェンシングの全中では、 サブル個人で男女共に沼津の選手が優勝
2 静岡県 裾野市	 ■ 施設名称 裾野市準高地トレーニング10コース ■ 競技場の利用料金（一般） 4H：15,400円 ※無料コースも多数 ■ 域内情報 クロスカントリーコース、競技場等	■ 市の産業振興課が事務局となり、大学、スポーツ施設管理者、商工会等が集った 裾野市スポーツツーリズム推進協議会 が事業を推進 ■ 実証実験 で明らかになった準高地トレーニングの効果を用い、陸上チームに対して合宿の誘致活動を実施 →合宿チーム数はH30年度の12チームから、 R2年度には32チームに増加
3 岩手県 紫波町	 ■ 施設名称 オガルベース オガルアリーナ ■ 設備情報 更衣室、シャワー・大浴場（宿泊者限定）、カフェ、レストラン、ウェイトトレーニング室	■ 紫波町・バレーボール協会・企業及び団体が三位一体となった バレーボールでつながるまちプロジェクト を立ち上げ ■ 日本トップリーグ（Vリーグ）及び東北バレーボールリーグを開催し、多くの人を誘引 ■ 企業版ふるさと納税では、 R4年度は11社、R3年度は9社から寄付 を受けており、他の資金調達方法も用いながら持続性高く運営

3. 計画内容の検討

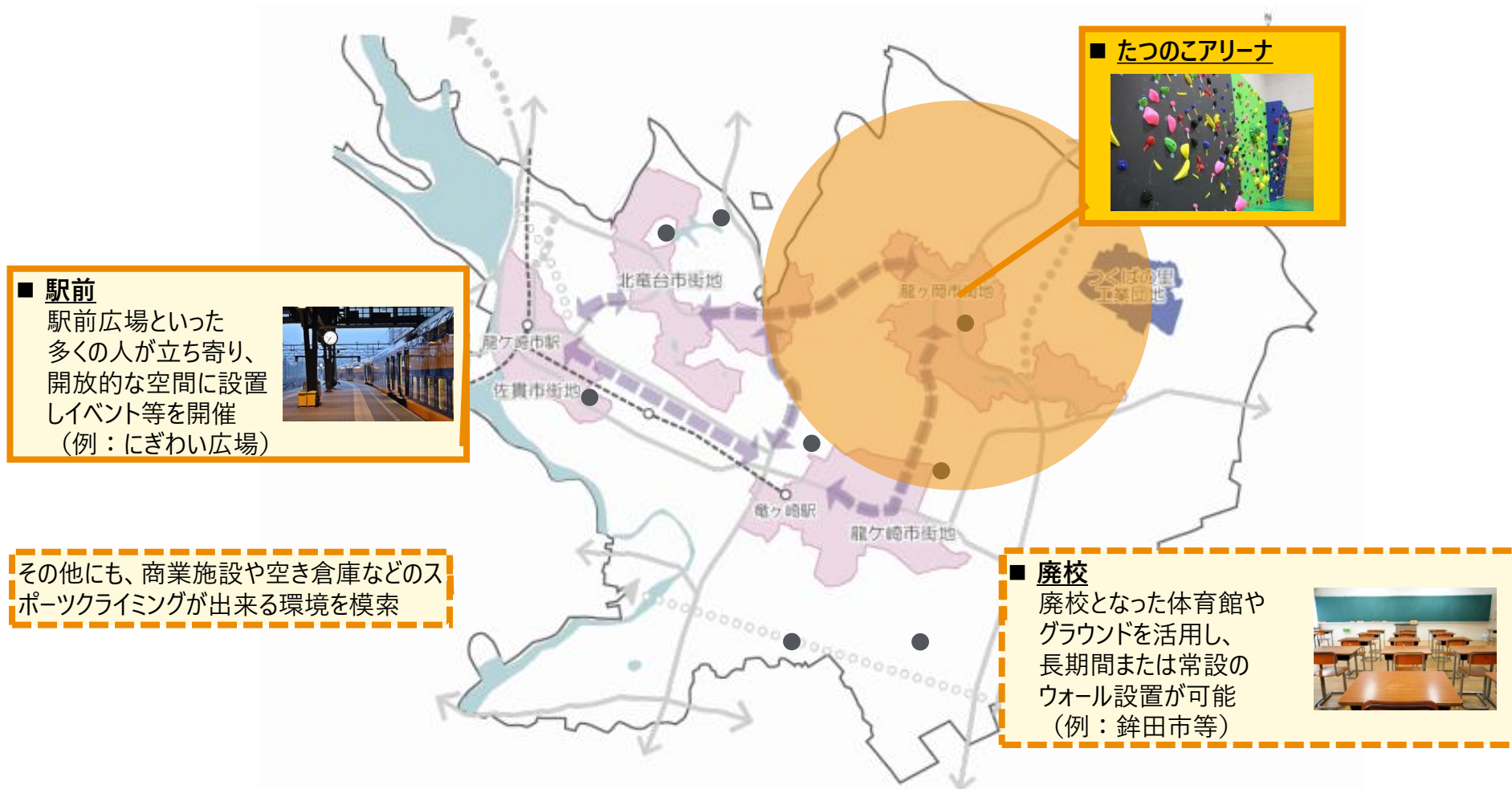
3-1. 調査設計

3-2. 外部環境調査

3-3. 内部環境調査

龍ヶ崎市内には、ハブとなるたつのこアリーナを中心として、活用可能な施設を明確にしたうえで、連携して事業を推進することで、面的なまちづくりの推進が可能です

市内主要施設のマップ（アップデートを予定）



龍ヶ崎市内のグルメ・特産品、壁設営等のハード整備に関連する団体や企業とコラボレーションすることで、まちの「にぎわい」を創出できます

龍ヶ崎市の産業の例（抽出・マップ化予定）

ハード整備

建設企業

クライミングを支える壁等のインフラや、施設の整備・保守等への協力が可能
（例：建設機器メーカー）



場所貸出

商業施設

商業施設の、室内の十分な広さのある環境を提供可能
（例：大型小売店）



特産品

農産物直売所

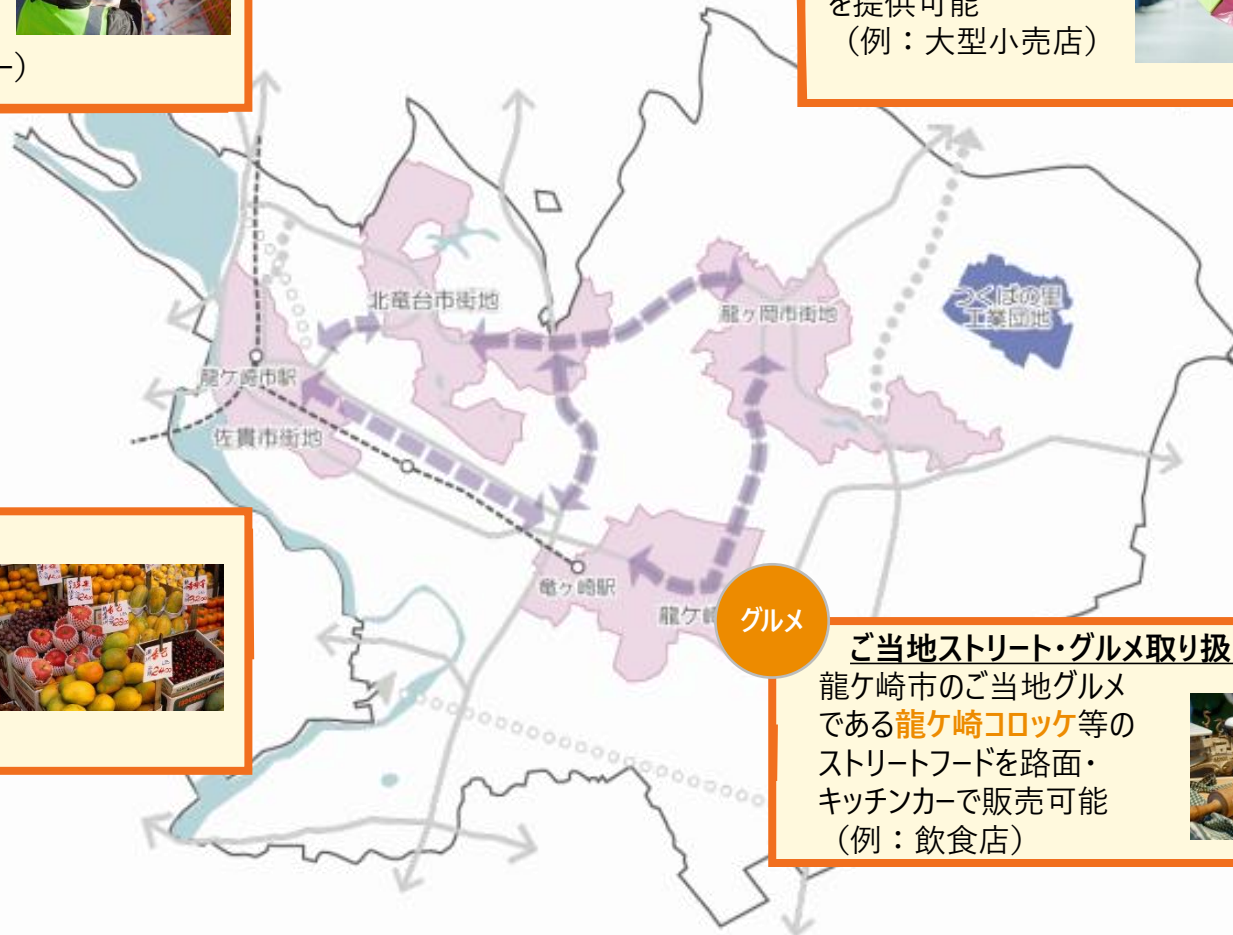
クライミング後の栄養補給や地産地消として野菜や果物等の販売が可能
（例：市内の直売所）



グルメ

ご当地ストリート・グルメ取り扱い企業

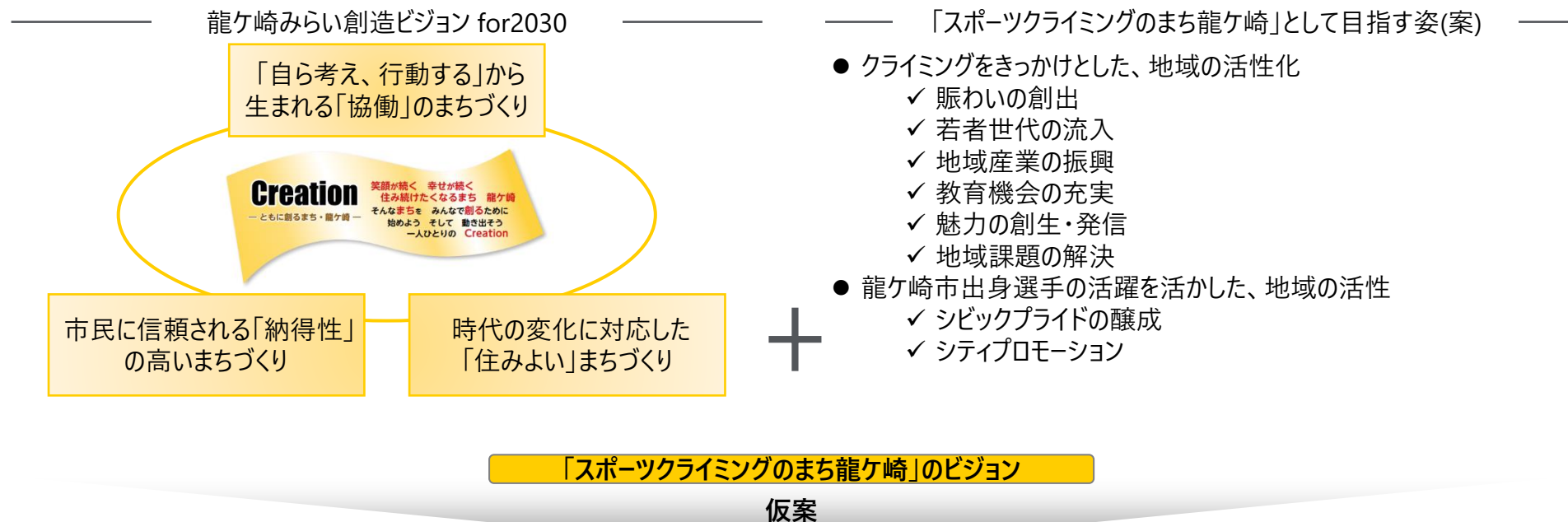
龍ヶ崎市のご当地グルメである龍ヶ崎コロッケ等のストリートフードを路面・キッチンカーで販売可能
（例：飲食店）



4. 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の目指す姿

みらい創造ビジョンfor2030のあるべき姿の達成にもつなげる「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の目指すべき姿として、将来ビジョンを策定しました。

ビジョン策定(案)



スポーツクライミングで にぎわう 育む つながる うるおう
“みんなでつかもう龍ヶ崎の未来”

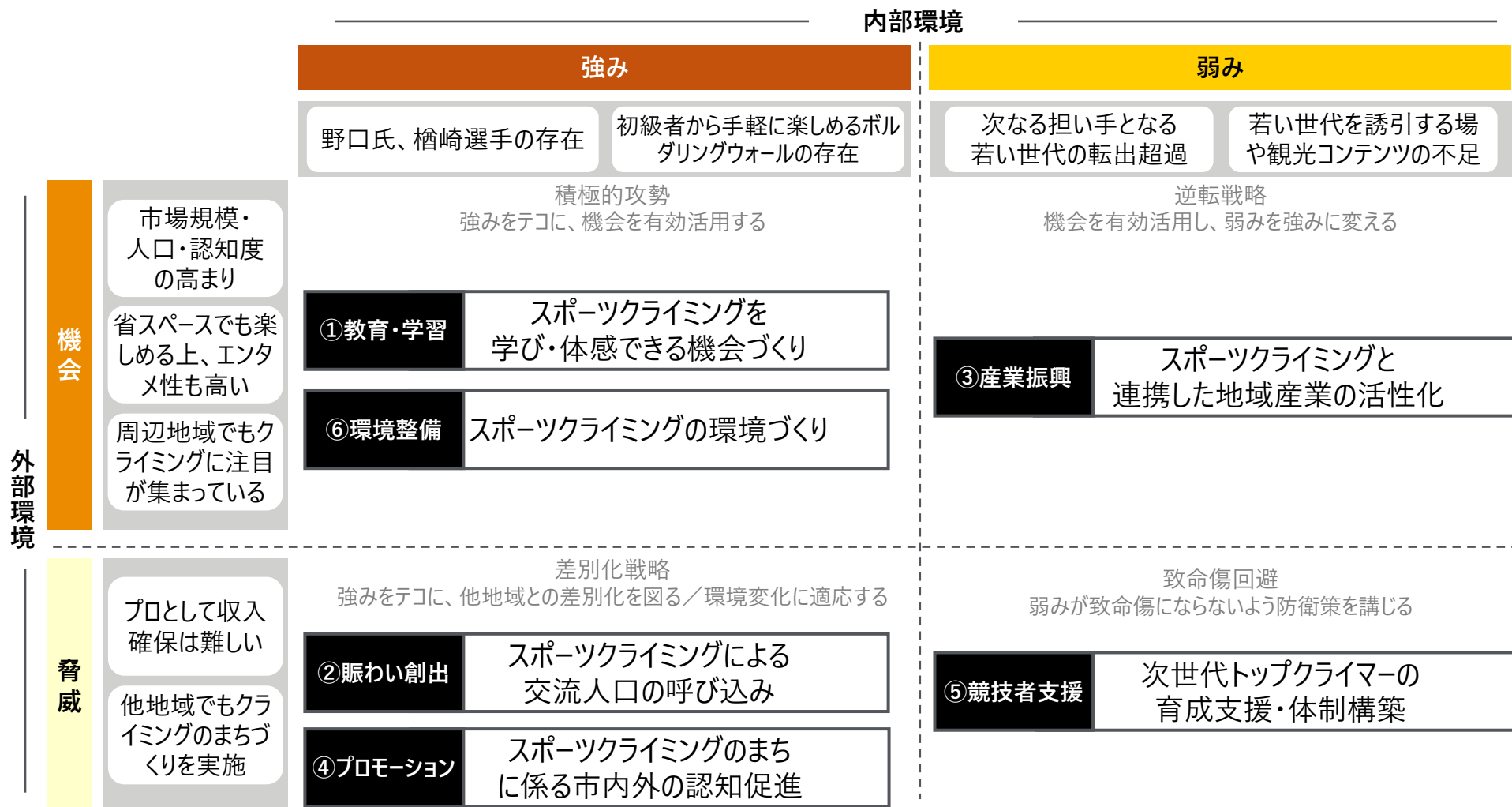
3C(自社：Company、市場：Customer、競合：Competitor)の観点を採用した調査の結果

調査項目

		調査項目	調査結果
外部環境調査	市場調査	✓ スポーツライミングの特徴 ✓ スポーツライミングに関するトレンドや先進事例 ✓ スポーツライミングの市場規模や成長率	■ オリンピックの正式種目として採用された東京五輪以降、スポーツライミングの市場規模・人口・認知度は拡大中 機会 ■ 省スペースでも出来る都市型のスポーツとして、専用ジム増加 機会 ■ エンタメ性が高く、観戦者も楽しめるイベントや大会が多く開催 機会 ■ 国内に推定約279万人のスポーツライミング愛好者がいるが、専業で十分な収入が得られるプロ選手は僅か 脅威
	競合調査	✓ 茨城県内/外におけるスポーツライミングの施設調査 ✓ 茨城県内/外でスポーツライミングによる地域活性化を行っている自治体の動向調査	■ 周辺地域におけるスポーツライミング施設の増加 機会 ・茨城県内（つくば市・笠間市・鉾田市・大子町等）においても、スポーツライミングで地域活性化を図る自治体が存在 ■ 他地域におけるスポーツライミングの注力度向上 脅威 ・三重県伊賀市、佐賀県多久市、東京都昭島市、埼玉県小鹿野町等がアーバンスポーツに注力したまちづくりを展開
内部環境調査	自市調査	✓ スポーツライミングを通じた地域活性化に必要な資源、戦略に合致する資源の調査 ✓ 観光地、飲食、宿泊施設、イベント会場・賑わい拠点等の調査	■ 野口氏、檜崎選手が龍ヶ崎市に在住 強み ■ 初心者から手軽にスポーツライミングを楽しめるたつのこアリーナの存在 強み ■ 次なる担い手となる若い世代の転出超過 弱み ■ 若い世代を誘引する観光コンテンツ、まちの賑わい創出の拠点・プラットフォームとなるような場の不足 弱み

調査結果を踏まえてSWOT分析を行い、そこから龍ヶ崎市で注力すべき領域(テーマ)を整理しました

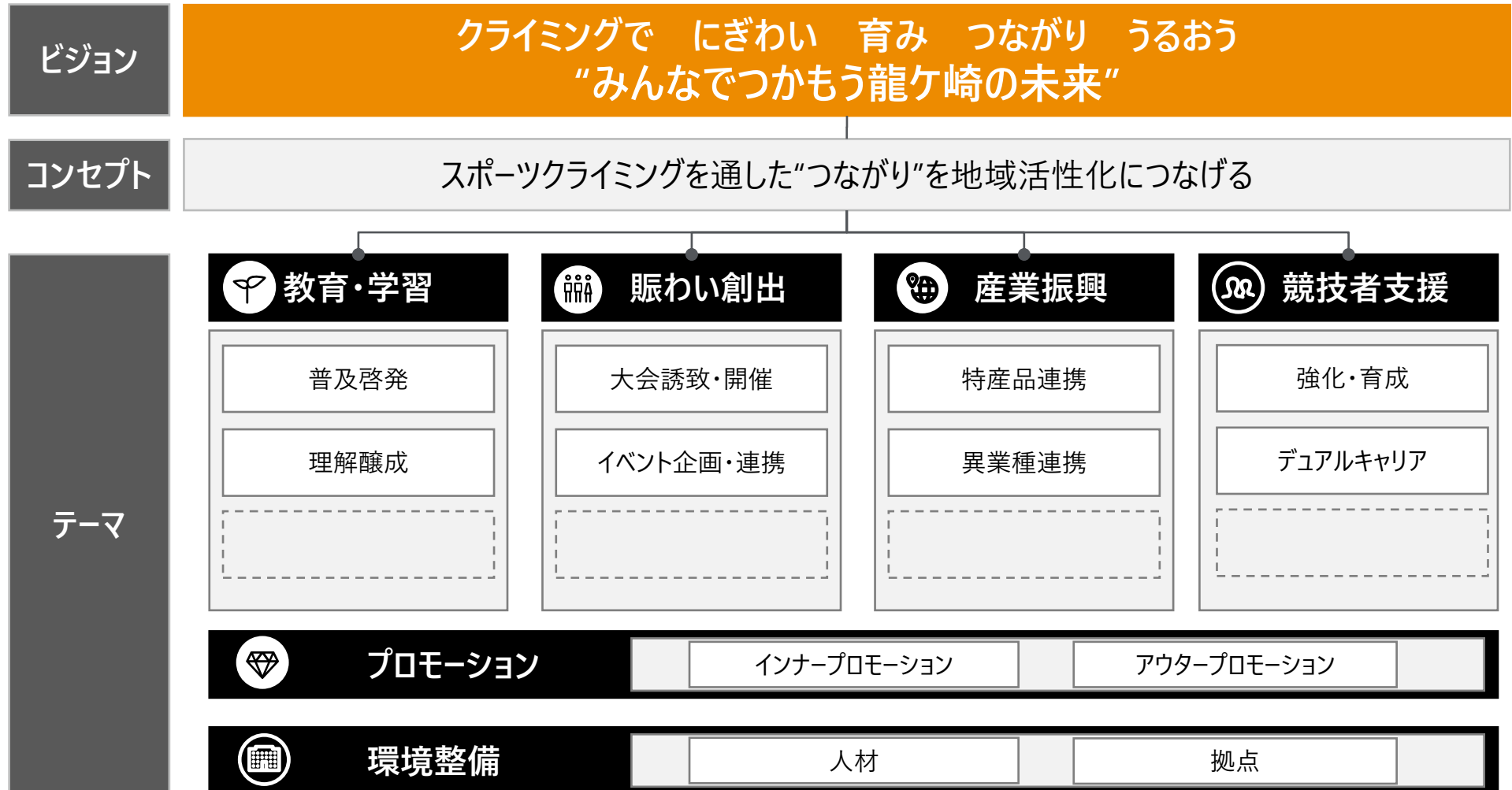
調査項目と結果サマリ



「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」は、スポーツクライミングをきっかけに政策横断的な取り組みを推進し、人の交流と地域の賑わいを促進します

基本構想の全体像

案



5.施策内容

5-1.施策一覧

5-2.各施策の詳細

事業テーマ案を具体化したアクション案をたたき台として、審議会・WSの意見を織り込み、スポーツクライミング推進に資する有機的なアクション計画へと精緻化する想定です

事業テーマ案に紐づくアクション（案）

テーマ	アクション		概要
①教育・学習	1	学校と連携した普及活動	市内の小学生や中学生に対してスポーツ教育の一環として学校教育の場を用いてスポーツクライミングの機会を提供
	2	体験会開催	市民を対象にスポーツクライミング・パラクライミングの体験機会を提供
②賑わい創出	3	大会誘致	大規模大会（World Cup、JAPAN CUP等）の誘致等を行い、大会を開催
	4	イベント企画	既存のお祭り等のイベントを活用し、スポーツクライミングに無関心な層を含む市内外の人々が集まるイベントの企画・開催
③産業振興	5	特産品の開発	龍ヶ崎市の名産品を用いてクライミング×食の新たなメニューなど地域の魅力開発
	6	異業種とのコラボレーション	アートやファッションなどスポーツクライミングと相性の良い異業種とコラボレーションした産業を創出
④プロモーション	7	市内に向けたPR	龍ヶ崎市のスポーツクライミング推進のシンボルとなるロゴを作成の上、冊子やHP、グッズ等で発信するブランディングにより、市民の認知向上、愛着醸成
	8	市外に向けたPR	大会・イベントをキックにスポーツクライミングのPV等、各種PRコンテンツを作成し、龍ヶ崎市の魅力を市外へ発信
⑤競技者支援	9	強化指定プログラム等	トップアスリートを対象とした強化・育成選手向けプログラム（先端技術を導入した育成環境等）の構築・提供や資金・PRの援助等で市への継続的関与意向創出
	10	選手のデュアルキャリア支援	産業振興に競技者が仕事として関わることでデュアルキャリアを支援
⑥環境整備	11	スポーツクライミング環境整備	既存施設を含めたスポーツクライミングに親しむための環境としてどうあるべきか方針を策定し、それに基づきスポーツクライミングの環境を整備
	12	人材確保	スポーツクライミングの競技者や有識者に「地域おこし協力隊」として移住を促すことや、事業を牽引するような事業者等を発掘し、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」関連事業の推進に要する人材を確保